

A scenic view of a river in Slovenia, likely the Drava River. A bridge spans the river in the middle ground. In the background, a town with red-tiled roofs and a church spire is visible on a hillside under a blue sky with scattered clouds. The foreground shows a grassy bank on the left.

SLOVENIA

SACRED PLACE OF

GASTRONOMY



SLOVENIA

SACRED PLACE OF

GASTRONOMY



スロヴェニアを読み解く3つのキーワード

① 緑豊かなスロヴェニア

国土面積	20,273 km ²
	四国よりやや広い
森林	10,124 km ²
	国土の約半分
ぶどう畑	216 km ²
	国土の約 10.7%

② 変化に富むスロヴェニア

国のシンボルであるトリグラウ山(2864m)を頂点とするアルプス山岳地方。冬は温暖で夏は暑い地中海性気候のアドリア海沿岸。リュブリャナの南東からクロアチア国境までの低地・丘陵地方と、マリボルの東からハンガリーへ続くパンノニア平原。山と海と平原が、小さな国に変化をもたらしている。

③ 自然を守るスロヴェニア

冬の間雪に閉ざされ、困難な生活を強いられるアルプス山岳地方の住民には、山の自然を管理してもらおうという意味で、政府が補助金を出している。また、ブレッド湖は環境保護のために、モーターボートの乗り入れが禁止。昔と変わらず手こぎの船が使われ、静寂と平安が保たれている。



右上/シムッチファイナリーでは、年間2000本しかつくりださないワインもある。かのコマネ・コンティは約6000本だから、希少性の高さがわかる

右下/テラスからはイタリアまで続くぶどう畑が一望できる

上/一見クールなシムッチ氏だが、「山あり谷ありでも、自分の道で自分の味をつくりたい」とワインへの思いは熱い



こだわりのワインは、アートでもある

20m先はイタリアという、マーヤン・シムッチ氏が有する16ヘクタールに及ぶ畑は、一部がイタリア国土にかかる「偉大なワインのための土地」といわれる場所にある。「僕の人生はワイン」と語るシムッチ氏は5代目である。

彼はワイナリーのオーナーというより、ワインの芸術家という称号がふさわしいかも知れない。良いぶどうだけでつくることを心がけ、そのために通常なら16万本できる規模の農地で8万本しかつくりださない栽培法をしている。緑のぶどう狩りは2回。あとは捨ててしまう。気候にも土地にも恵まれた農園なのだが、ただそれを享受してはいない。むしろ攻めのワインづくりをしているのである。それは、この土地の味をワインに活かしたいからだとしムッチ氏は言う。

「飲んでみて」と差し出されたシビ・ピノはいわゆるピノ・グリ。草原の香りのするワインは、ステンレス樽に2日間だけ皮ごと入れて発酵を促し、甘さを酸味が引き締めている。「飲んで、すぐまた

飲みたくなるものをつくるのは難しい」と彼は言う。でも、このワインがそうだよマーヤン。私はテイニングを忘れグラスを差し出す。03年のソーヴィニニオンは、実と皮をいっしょに入れておくマツアレレーションしたもの。それも2週間も。ゆえにソーヴィニニオンとは思えない濃い色だが、かといって味が重たいわけではない。



これも、彼のアート。イタリアのワインコンテストで一番を獲ったのも頷ける。

「まだまだ僕はビジネス以前に僕のワインを認めてもらう段階にある。ワイン通は国外に多い、そして、僕を認めてくれる人達がいる。それがエネルギーになっていく」。ワインのアーティストは、次の作品づくりのためのアイデアで頭がいっぱいのようなだ。